

想像の連鎖が生み出す場所  
-写真から設計する建築-

21418051 武茂 由佳子  
指導教員 宮 晶子 准教授

写真 偶然と計画 フィルムカメラ  
ほのめかし 距離感 想像

1. 背景と目的

建築において、写真の役割は完成形をおさめるものであったり、敷地調査で周りの状況を忘れないよう記憶する媒体として多く利用されている。私は高校時代からフィルムカメラを用い作品づくりを続けてきた。写真には計算し尽くしても起きてしまう偶然性があり、また見る人によっても同じ写真から全く違う感想を聞くことがある。

写真には、想像力を刺激する力があると言える。

また一方で、建築設計では平面図を作り、そこから立面を立ち上げ空間を想像していくアプローチが社会では一般的ではないだろうか。そこで、本研究ではく写真=立面>として捉え直し今までとは違う順で建築を設計していきたいと思う。建築を写真から組み立てることで想像もできなかった新しい空間作りを試みる。

2. リサーチ

□分類、連想

これまで撮りためてきた写真の中からフィルムカメラならではの写りだと感じるものを x,y 軸を用い分類する。(x 軸：偶然と計画、y 軸：人とモノ)



図1 写真をグラフ化する

その後、写真からキーワードを抜き出し連想ゲームのようにつなげることが可能かを模索した。空間化することは難しかったが、ある種の“ほのめかし”を感じ

させる手がかりになりそうな発見があった。



図2 連想ゲームのように写真をつなげる手法の例

□街からの発見

35ミリフィルムカメラを用い、画角が固定されている中で街を歩き気になるオブジェクトや雰囲気を書し取った。スマートフォンなら一枚で収まる絵も、画角の狭い35ミリフィルムカメラを用いると何枚もシャッターを切らなければ全体像がわからないため特に気になったものは複数枚の写真で成り立つ大きな一枚が現れてくることに気づく。

ここでは、新宿ゴールデン街と鶯谷のラブホテル街へ出向き、狭い敷地に絶妙なバランスでひしめき合うオブジェクト採集を行った。



図3 ゴールデン街での比較

### 3. 敷地

敷地は東京都世田谷区奥沢。写真が持つ想像の連鎖を起しやすい、小さなほのめかしが多数見つかったためだ。

徒歩圏内には自由が丘、田園調布などがあり閑静な住宅街が広がる。駅前から南東方向に伸びる道路は基盤目状の区画を斜めに走っており、いたるところに三角地帯を形成し唯一無二な街並みを形成している。

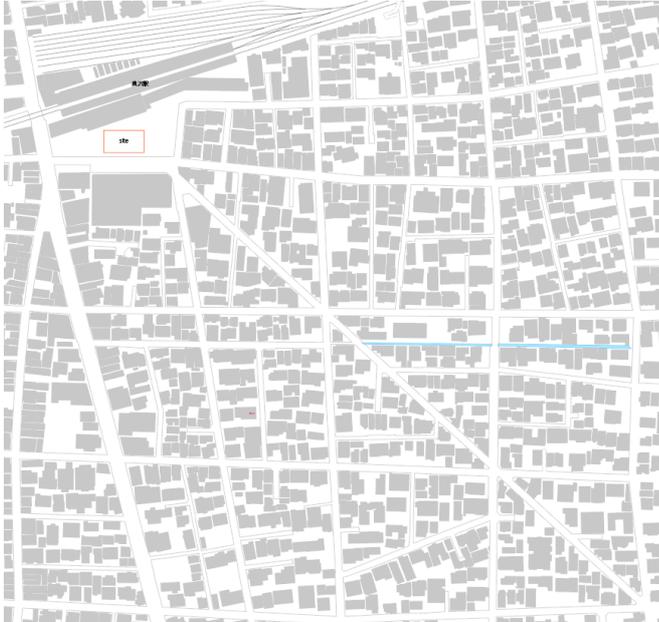


図4 奥沢駅周辺地図

### 4. 設計プロセス

#### □オブジェクト抽出

年月を経た、要素が混在する敷地から道しるべとなるものや、色や素材感などに注目し約400枚のスナップ写真を集めた。

こちらでも35ミリフィルムカメラを用い、画角の固定による被写体の写りの違いが顕著に現れた。



△色や素材に注目し、オブジェクトを採集



△6 又路で立ち位置を決め、一回りしながら撮影する。

図5 敷地からの発見例

#### □設計手法

街中で集めたスナップ写真を全て同じサイズに合わせ、何に反応したかを抜き出す。同じオブジェクトであっても、被写体と自己の距離感の関係により想像より大きくも小さくもあるピースが出てくる。

それらを立面として捉え、キーワードごとに横につなげていく。想像の連鎖でつながったオブジェクトは偶然性を期待できる渦巻き状に配置していく。

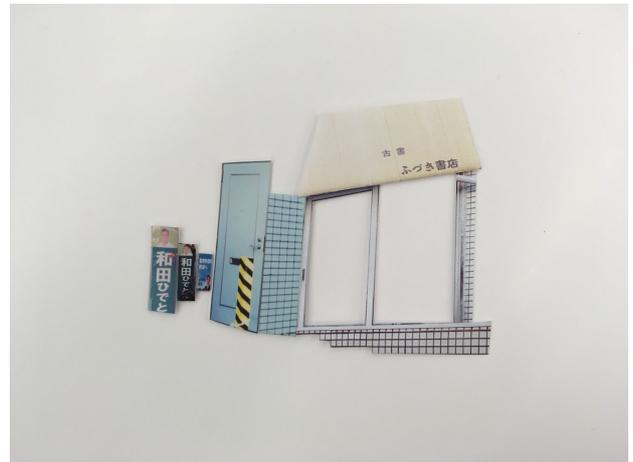


図6 つなげた一例

#### □プログラム

建物用途としては、現行と同じ複合施設とする。ファミリー向けの住宅街を支える野菜屋、ドラッグストア、書店など。それぞれの配置は、引用したオブジェクトや色味などを参考に決定する。

#### 参考文献

- 1) ロラン・バルト著  
「明るい部屋 写真についての覚書」
- 2) ホンマタカシ著  
「楽しい写真 よい子のための写真教室」  
「楽しい写真3 ワークショップ編」
- 3) 長坂常著  
「B面がA面にかわるとき」